

令和 8 年度 入学試験問題

総合問題（日本語支援）

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答はすべて別紙解答用紙に記入下さい。
3. 解答用紙は3 枚です。
4. 解答方法が論述方式の場合は、1 マス目から書き始め、1 文字空けた
り、改行したりせずに横書きで書き進め下さい。
5. 各解答用紙には、受験番号を記入する欄がそれぞれ1 箇所あります。
すべて記入下さい。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰り下さい。

I 以下の文章を読み、後の問いに答えよ。

わたしの息子が英国のブライトン&ホヴ市にある公立中学校に通い始めた頃のことだ。

英国の中学校には「シティズンシップ教育」というカリキュラムがある。息子の学校では「ライフ・スキルズ」という授業の中にそれが組み込まれていて、議会政治についての基本的なことや自由の概念、法の本質、司法制度、市民活動などを学ぶのだが、その科目のテストで、「エンパシーとは何か」という問題が出たという。

息子は「自分で誰かの靴を履いてみること」と答えたい。「To put yourself in someone's shoes (誰かの靴を履いてみること)」は英語の定型表現である。もしかしたら、息子が思いついたわけではなく、先生が授業中にエンパシーという言葉の説明するのにこの表現を使ったのかもしれない。

「エンパシー」という言葉を聞いて、わたしが思い出したのは「シンパシー」だった。正確には、「エンパシーとシンパシーの違い」である。

わたしのように成人してから英国で語学学校に通って英語検定試験を受けた人はよく知っていると思うが、「エンパシーとシンパシーの意味の違い」は授業で必ず教えられることのひとつだ。エンパシーとシンパシーは言葉の響き自体が似ているし、英国人でも意味の違いをきちんと説明できる人は少ない(というか、みんな微妙に違うことを言ったりする)。だから、英語検定試験ではいわゆる「ひっかけ問題」の一つとして出題されることがあるのだ。

とはいえ、わたしが語学学校に通ったのはもう二十数年前のことなので、すっかり忘れてしまった二つの言葉の意味の違いをもう一度、英英辞書で確認してみることにした。

エンパシー(empathy)…他者の感情や経験などを理解する能力

シンパシー(sympathy)…1. 誰かをかわいそうだと思う感情, 誰かの問題を理解して気にかけていることを示すこと

2. ある考え, 理念, 組織などへの支持や同意を示す行為

3. 同じような意見や関心を持っている人々の間の友情や理解

(『Oxford Learner's Dictionaries』のサイト oxfordlearnersdictionaries.com より)

英文は、日本語に訳したときに文法的な語順が反対になるので、エンパシーの意味の記述を英文で読んだときには、最初に来る言葉は「(A)」だ。

他方、シンパシーの意味のほうでは「the feeling (感情)」「showing (示すこと)」「the act (行為)」「friendship (友情)」「understanding (理解)」といった名詞が英文の最初に来る。

つまり、エンパシーのほうは能力だから身につけるものであり、シンパシーは感情とか行為とか友情とか理解とか、どちらかといえば人から出て来るもの、または内側から湧いてくるものだということになる。

さらにエンパシーとシンパシーの対象の定義を見ても両者の違いは明らかだ。
(①)のほうには「他者」にかかる言葉、つまり制限や条件がない。しかし、
(②)のほうは、かわいそうな人だったり、問題を抱える人だったり、考えや理念に支持や同意できる人とか、同じような意見や関心を持っている人とかいう制約がついている。つまり、(③)はかわいそうだと思う相手や共鳴する相手に対する心の動きや理解やそれに基づく行動であり、(④)は別にかわいそうだとも思わない相手や必ずしも同じ意見や考えを持っていない相手に対して、その人の立場だったら自分はどうかと想像してみる知的作業と言える。

息子は学校で、「テロや EU 離脱や広がる格差で人々の分断が進んでいるいま、¹エンパシーがとても大切です。世界に必要なのはエンパシーなのです」と教わったそうだ。

と、ここまでは『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』という本に書いた話である。

この本を出版したとき、意外な反応があったことは前にも書いた。本を読んだ人たちの多くが「エンパシー」という言葉について語り始めたのである。

正直、これには驚いた。英国や米国など、英語が母国語の国では、「エンパシー」はもう何年も前からクローズアップされてきた言葉だし、例えばオバマ前大統領などが好んでこの言葉を使っていたので様々なメディアにばらまかれ、もう「聞き飽きた」という人々もいるほど裾野まで浸透している(だからこそ学校でも教えているわけだし)。

そこで考えたのは、ひょっとして日本では「共感」という言葉は広く流通していて

も、その元ネタである「エンパシー」という英単語はあまり知られていないのではないかということだ。で、実はここでもたいへん厄介な問題があり、エンパシーは「共感」という日本語に訳されるが、シンパシーも「共感」と訳することができるのだ。シンパシーのほうには(B)といった訳語もあり、エンパシーは「感情移入」、「自己移入」と訳されることもある。

いずれにしろ、日本語になると「エンパシー」も「シンパシー」も同じように感情的・情緒的というか、単なる「お気持ち」の問題であるような印象を与えてしまう。つまり、(C)。これだと、エンパシーという言葉の訳は英英辞書とはずいぶんかけ離れたものになる。特にエンパシーの訳語に「ability(能力)」という言葉がまったく反映されていないのは奇妙だ(と同時に、なぜ日本でそうなっているのかは面白い点でもある)。

正しい言葉の意味を知る上でも、エンパシーについて書かれた本の邦訳を読んで理解する上でも、エンパシーという単語の日本語の定訳をいつまでも「共感」という表現にしておくのは問題なのではないか。

(出典：ブレイディみかこ著『他者の靴を履く アナーキック・エンパシーのすすめ』文藝春秋、2021 年、13-17 頁に基づき、一部改編)

問 1 前後の文脈から考えて、(A)にはどのような語が入るか。文意が通るように(A)に適切な語を書け。

問 2 (①)～(④)には、「a) エンパシー」「b) シンパシー」のいずれかが入る。それぞれに適切なものを選べ。

問 3 下線部1「テロや EU 離脱や広がる格差で人々の分断が進んでいるいま、エンパシーがとても大切です。世界に必要なのはエンパシーなのです」について、なぜエンパシーが必要と考えられるのか、最も適切なものを一つ選べ。

- a) 人々の分断によって被害をうけたり損害を被ったりするかわいそうな人たちがたくさん生まれているから。
- b) 共に生きていくためには、自分とは全く考えや立場が違う人たちの言動の理解に努める必要があるから。
- c) エンパシーを持つことで人々が考えを一つにし、世界中で起きている分断を止めることができるから。
- d) 世界中の人々がエンパシーを持って、テロ、EU 離脱、広がる格差を主導する人たちに反対する必要があるから。

問 4 (B)にあてはまらないものを一つ選べ。

- a) 同 情 b) 思いやり c) 支 持 d) 思いこみ

問 5 (C)に最も適切な文は以下のどれか。一つ選べ。

- a) 「身につける能力」というより、「内側から湧いてくるもの」のように聞こえるのだ。
- b) 「内側から湧いてくるもの」というより、「身につける能力」のように聞こえるのだ。
- c) 「身につける能力」でもあり、「内側から湧いてくるもの」でもあるように聞こえるのだ。
- d) 「身につける能力」でも、「内側から湧いてくるもの」でもないように聞こえるのだ。

問 6 波線部「自分で誰かの靴を履いてみること」とはどのような意味か。本文の中から 30 字以内で抜き出せ。

_____ こと

問 7 本文の内容に即した記述として最も不適当なものを一つ選べ。

- a) エンパシーは身につけることができるものである。
- b) シンパシーとエンパシーの日本語の定訳がいずれも「共感」であることで、日本語ではこの二つの言葉の本質的な違いが理解しにくくなっている。
- c) シンパシーは人々の分断につながる危険性があるため、現代社会においては重視されない傾向にある。
- d) 英国ではエンパシーとシンパシーの違いは学校で教わるが、日本ではそもそもエンパシーという言葉になじみがない。

Ⅱ 次の英文を読んで，後の問いに答えよ。

この個所は著作権の関係で表示できません。

この個所は著作権の関係で表示できません。

(“Bilinguals’ Superior Social Skills,” The New York Times, March 13, 2016 に基づく)

注

- 1) more than one language 二つ以上の言語
- 2) cognitive 認知の, 認知に関する
- 3) exposure 触れること, 影響されること
- 4) follow-up study 追跡研究, 追加の研究
- 5) be exposed to ～に触れる

問 1 下線部(1) three groups of children aged four to six years old とあるが、幼児はどのような特徴によって 3 グループに分けられたか、それぞれの違いがわかるように、日本語で簡潔に述べよ。

問 2 下線部(2) he or she は何を指すか。本文中より英語で抜き出せ。

問 3 下線部(3) perspectives とほぼ同じ意味で使われている英単語を、本文中からそのまま抜き出せ。

問 4 下線部(4) this experiment について、次の英文の指示に従え。

The sentence below explains “this experiment.” Write one word for each blank space.

The child should move the () of the two cars that the adult could see, () than the () of the three cars that the child could see.

問 5 下線部(5) babies from monolingual environments reached equally often for either banana とはどういう意味か。次の空所に適切な語句を補って説明文を完成させよ。

()にある赤ちゃん達は()のバナナにも同じ()で手を伸ばした。

問 6 下線部(6) apparently と最も近い意味の単語を次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号を記入せよ。

- ① certainly ② clearly ③ definitely
④ obviously ⑤ seemingly

問 7 下線部(7)を日本語に訳せ。

問 8 カッコ(8)に入れるのに適切な英単語 1 語を答えよ。

Ⅲ 以下の文章を読み、後の問いに答えよ。

電車の窓越しに見た桜の花が、うっすらとした青い空を背に鮮やかで、ふと鞆からスマートフォンを取り出して、「桜がすっかりきれいに咲いているよ」と恋人へメッセージを送る。少しして恋人から、「こちらもいま桜を眺めていたところだよ。お花見でもしたい日和だね」と返事が来る。私たちは互いに何かを伝えあい、コミュニケーションをする。

人間の社会でもっともありふれたものを挙げるとするならば、ひとつの有力な候補はコミュニケーションではないだろうか。通り道で見かけた素敵なものについて恋人に報告をするとき、カフェでコーヒーを注文するとき、子供に何かを教えるとき、私たちはコミュニケーションをしている。

(中略)

コミュニケーションというもの、とりわけ人間特有の形でのコミュニケーションを、話し手が何かを意味し、聞き手がそれを理解することで成立する営みと捉えることにしよう。「意味する」というのは日本語としては馴染みがないかもしれないが、英語の動詞「mean」に対応するものと考えことにする。また本書では、何かを意味したり意味されたことを理解したりすることを行為の一種として捉えることにする。つまり、コミュニケーションは意味するという行為と理解するという行為から構成される営みと見られることになる。これが広く「コミュニケーション」と呼ばれるもの全般を包括するような十分な記述だと主張するつもりはないが、しかし人間のコミュニケーションというものを直観的に捉えるための手がかりとしてはひとまず満足のいくものだろう。冒頭の例においては、私は話し手として「桜がすっかりきれいに咲いているよ」と言い、それによって何かを、例えば恋人にも桜をぜひ見てほしいと自分が思っているというようなことを意味し、恋人はそれを理解し、次に話し手と聞き手を入れ替えて同じようなことを繰り返し、私たちはコミュニケーションをしている。仮に「コミュニケーション」という言葉を人間以外の動物にも当てはめられるように広く解するならば、「8」の字に躍るミツバチや道標となるフェロモンを残すアリもまた仲間との「コミュニケーション」を取っていると言えるだろう。しかし人間以外の動物にも見られるこうした振る舞いは、私が恋人

に「桜がすっかりきれいに咲いているよ」と語りかけたときのコミュニケーションとは重要な点で異なっている。ミツバチやアリはおそらく自身のそうした振る舞いを意識的に制御できるわけではなく、それゆえ何かを意味するためにそれらを意図的におこなっているわけではない。また仲間のミツバチたちやアリたちもそれらを理解したうえで次の行動を決めているわけではなく、ただ機械的に反応しているにすぎない。しかし「桜がすっかりきれいに咲いているよ」と語りかける私は、それによって何かを意味するためにそのようなことを言っているのであり、また恋人が単にスマートフォンの画面を通じて与えられる視覚情報に反射的に反応するのではなく、私の意味したことを理解し、そうした理解をもとにしてさらなる発言や振る舞いをするのを私は期待している。私は何かを意味し、うまくいけば恋人はそれを理解し、そうして人間的なコミュニケーションが成り立つのである。

1

(中略)

何かを意味するという行為に対し、これまでの論者は話し手の心理、とりわけ話し手の意図という観点からアプローチしてきた。これに対して私が提案する立場では、話し手個人の心理ではなく、むしろ話し手と聞き手が作り上げる共同体というものに目を向ける。すなわち本書で目指すのは、何かを意味するという行為を捉えるうえでの立脚点を、話し手個人の心理から話し手と聞き手による社会的な営みへと転換することである。²しかしそうした議論に入る前に、まずは誰かが何かを意味するというありふれた行為が、実は不可思議ですぐには理解しがたい、それゆえ哲学的な思考を誘うものであるということを、具体例を挙げながら語っていこう。

ひとつの不可思議さは、あるひとが何かを言って何かを意味するとき、そのひとは単に音を発する以上の何かをしているということである。次のような場面を考え³てみてほしい。子供が玄関で靴を履いている。どこかに出かけようとしているのだろう。それに気づいた親が「雨が降っているよ」と声をかける。子供はドアノブをつかもうとしていた手を止め、「わかった。ありがとう」などと言いながら、傘立てから傘を取り、改めてドアを開ける。ありふれた日常の一場面である。だがその実、このエピソードはある不可解な出来事を描き出しているのだ。⁴親が発したのは一見すると「アメガフツテイルヨ」という音声でしかない。だがこの音声そのものが持つ音響的側面をどのように分析したところで、この音声と傘を取るという子供の行動

とを結びつけるものは見出せないだろう。そこには何か単なる音響的性質以上のものがある。子供はその何かを容易に理解し、そしてそれに対して応答している。ひとが音声を発することで何かを意味し、相手がそれを理解するとき、ただ音を出し、相手がそれを聴覚的に受け取るという以上の交流が生じているのだ。もちろん、声以外の方法による場合も同様だ。(⑤)で何かを言うときなどにも、明らかに手の物理的な運動以上の何かが生じている。だがその何かとは結局のところ何なのだろうか？ こうしたことこそが何かを意味するという行為に含まれるもっとも根本的な謎だ。ひとが何かを意味するとき、いったい何が起きているというのだろうか？

親の発したのはもちろんただの音ではない、それは日本語の表現なのだ、だから単なる音響的性質以上の何かが生じているのであり、それ以上の不思議などない、そう考えるひともいるかもしれない。だが、言語の意味というものがそもそも謎に満ちているということを脇に置いたとしても、こうした考え方では、何かを意味するという行為の実態は捉えきれない。確かに先の例において親が子供に発した音は、単なる音ではなく、日本語の文の発話となっている。だが、親が何かを意味したことになるのは、親の発したのが日本語の表現であるからでは(少なくともそれだけでは)ないのである。

そのことはふたつの方向から示すことができる。第一に、親の発した「雨が降っているよ」という日本語表現は確かに意味のある文であるが、しかしこの文が持つ意味によってだけではこれを受けて子供が理解した事柄を捉えきることはできない。実際、この日本語文そのものは(⑥)ということを表現しているにすぎない。しかし親が出かけようとしている子供に声をかけたとき、ただそれだけのことが伝えられ、子供に受け取られたわけではない。親は子供が傘を忘れないように気を配ったのであり、また親の発話を受け取った子供はそのことを理解し、傘を手にとったのである。だが「雨が降っているよ」という日本語文そのものには「傘」などという言葉は出てこず、それゆえこの文自体が傘に関する意味を日本語として担っているわけではない。発話された日本語の文が持つ意味を挙げただけでは、この例で起きている不可解な出来事は説明できないのである。親が意味したのは、用いられた日本語文の意味そのものとは別のことなのだ。

第二に、実は日本語表現を用いることなく同様の例をつくることができる。出かけようとする子供のそばへと親が歩み寄り、無言で手を振って子供の注意を惹きつけ、そのうえで窓の外を指差したとしよう。その指の先には、雨が降りしきる光景が広がっている。この場合でも子供はやはり「わかった。ありがとう」などと言いながら傘を手取るだろう。親はもはや日本語文を発話してさえいないが、それでもなお起きている現象に本質的な違いはない。だとすれば、この現象は、用いられた日本語文というものを持ち出すことなく説明され得るようなものであるはずなのだ。

要するに、親子のコミュニケーションの例では、言葉が持つ意味とは次元を異にする、別の種類の意味というものが関与しているのである。この例において、親は「雨が降っているよ」と言うことによって、(⑦)ということの意味した。そして子供はそれを理解して、その助言に従った。ただしここでの「意味した」は、親が用いた日本語がそうした意味を持っているというのとは異なる意味での「意味した」なのである。冒頭で定めた意味合いにおける人間的なコミュニケーションは、こうした独特な意味の概念が関与するものとして捉えられなければならない。

(出典：三木那由他『話し手の意味の心理性と公共性 コミュニケーションの哲学へ』勁草書房、2019年、1-5頁に基づき、一部改変)

問 1 下線部 1「人間的なコミュニケーション」とあるが、人間的ではないコミュニケーションについて説明せよ。

問 2 下線部 2「話し手と聞き手による社会的な営み」と同じ内容を表す表現を本文中から 35 字以内で抜き出せ。

問 3 下線部 3「単に音を発する以上の何かをしている」とあるが、本文冒頭の波線部「桜がすっかりきれいに咲いているよ」において、「単に音を発する以上の何かをしている」とはどういうことか本文に即して説明せよ。

問 4 下線部 4「ある不可解な出来事」とは何か説明せよ。

問 5 空欄⑤に入ることばを漢字二字で答えよ。

問 6 空欄⑥に入る表現を書け。

問 7 空欄⑦に入る表現を書け。